

(一社)日本建設業連合会 東北支部
会員会社一覧

アイサワ工業(株)	大日本土木(株)
青木あすなろ建設(株)	大豊建設(株)
あおみ建設(株)	(株)竹中工務店
(株)浅沼組	(株)竹中土木
(株)新井組	鉄建建設(株)
(株)安藤・間	東亜建設工業(株)
伊藤組土建(株)	東急建設(株)
岩倉建設(株)	東鉄工業(株)
岩田地崎建設(株)	東洋建設(株)
(株)植木組	戸田建設(株)
大木建設(株)	飛鳥建設(株)
(株)大林組	西松建設(株)
(株)大本組	日特建設(株)
(株)奥村組	(株)NIPPO
オリエンタル白石(株)	日本国土開発(株)
(株)加賀田組	(株)ノバック
鹿島建設(株)	(株)橋本店
株木建設(株)	ピーエス・コンストラクション(株)
川田工業(株)	(株)フジタ
(株)熊谷組	(株)不動テトラ
(株)鴻池組	(株)福田組
五洋建設(株)	(株)本間組
佐藤工業(株)	前田建設工業(株)
清水建設(株)	松井建設(株)
ショーボンド建設(株)	三井住友建設(株)
西武建設(株)	みらい建設工業(株)
(株)銭高組	村本建設(株)
仙建工業(株)	(株)森組
第一建設工業(株)	(株)森本組
大旺新洋(株)	ライト工業(株)
大成建設(株)	りんかい日産建設(株)
大成ロテック(株)	若築建設(株)

ご意見ご感想をお寄せください
本誌D'ewsをご覧になっての、ご意見・ご感想および取りあげて欲しい記事などを書いて、下記のD'ewsアンケート係までお送りください。

発行／(一社)日本建設業連合会 東北支部
広報委員会
〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3(広業ビル)
TEL 022-221-7810
FAX 022-265-9465
E-mail tohoku@nikkenren.or.jp

2025年9月発行
編集／広報委員会
企画・制作／(株)創童舎

ひとと土木建築の情報誌
「デューズ」
News
日建連ニュース
2025
Vol.35

特集

浪江町 浪江駅周辺地区16-1号線外 基盤整備工事

将来の
豊かなまちを支える、
確かな土台を。

土木建築の
今が読める

Namie Town's First Steps

駅前に賑わいを取り戻す 最初の礎を着実に。

東日本大震災により甚大な被害を受けた福島県浪江町。

いま、その玄関口である浪江駅周辺では、

「まちの顔」としての賑わいを取り戻すための再生計画が進められている。

その第一歩として進行しているのが、区域内における基盤整備工事だ。

現在も人々が暮らす地域に隣接する場所での施工という制約の中、

未来のまちを支える礎が、着実に築かれている。



■ 工事概要

- ・工事名／浪江町浪江駅周辺地区16-1号線外基盤整備工事
- ・施工場所／福島県双葉郡浪江町
- ・工期／2024年7月25日～2027年3月13日
- ・発注者／独立行政法人都市再生機構 東北震災復興支援本部
- ・施工者／横山・前田 復旧・復興建設工事共同企業体 UR浪江作業所



“まちの顔”となる 浪江駅周辺再開発の基盤整備

福島県浜通りの北部に位置する浪江町は、海・山・川に囲まれ、豊かな自然が広がる地域だ。四季折々の風景は美しく、長い歴史の中で、人々の暮らしがしっかりと息づいてきた。しかし、2011年の東日本大震災と、それに伴って発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故により、当時約21,000人の町民は避難を余儀なくされた。2017年3月に避難指示は解除されたものの、いまだ町外から

戻らない人も少なくない。それでも、ハード・ソフトの両面で、着実に復興への歩みが進められている。

数ある復興施策の中でも、特に注目を集めているのが「浪江駅周辺整備事業」だ。駅周辺を「まちの顔」として再設計し、交流施設や商業施設、住宅などを一体的に整備することで、新たな賑わいの創出を目指している。

この再開発に伴う土地の基盤整備を担っているのが、UR浪江作業所の清水孝至所長（前田建設）だ。

「私たちが整備を担当しているのは、約

3haの土地です。このエリアには、今後さまざまな建物が建設される予定です。既存の建物などの撤去はほぼ完了しており、現在は、地下埋設物の撤去などを行う“整地工”、舗装や路面排水などを行う“道路工”、さらに水道管の付け替えや布設などを行う“水道工事”といった工事を各所で進めています」。清水所長はそう語り、浪江町役場やUR（都市再生機構）、さらには東北電力やNTTなどのインフラ事業者と綿密に協議を重ねながら、工事は順調に進んでいると説明した。

事前計画の精度と、
柔軟な現場対応力が鍵に

今回、清水所長がこの工事を任された理由の一つが、これまでURの再開発事業に携わってきた豊富な経験にある。たとえば、京都市木津川市の宅地造成や、仙台・長町エリアの再開発などに従事してきた。また、入社6年目に大阪で阪神・淡路大震災を経験したこともあり、まちづくりにおける基盤整備の重要性を深く理解している。「道路の造成や水道、電線といったインフラの整備は、将来のまちをかたちづくる“暮らしの基礎”。この“最初の一歩”がつかずけば、後に続く工事にも大きな支障をきたします。だからこそ、不備のないように、さまざまな想定を事前に重ねながら仕事を進めています」。

一方で、計画通りに進めるだけでなく、柔軟な姿勢で臨むことの大切さも強調する。「今回の整備では、特別な工法や最新技術を使っているわけではありませんし、事前に懸念点を洗い出す努力もしています。ただ、ここは長く人が暮らしてきた土地。設計図に表れないことや、図面に記されていない問題が、工事中に見つかることもあります。そうしたときには、臨機応変に対応できるよう、常に頭と心は柔らかくしておくようにしています」。特に今回のように、隣接地に今も人々が暮らす住宅や営業中の店舗があるような再開発では、現場にはより一層の配慮と工夫が求められる。

次ページでは、実際の現場で直面した課題や、それにどう対応したかについて、いくつかの事例を紹介する。



清水孝至所長「浪江町で、多くの子どもたちが楽しく過ごす姿を見られたらうれしい」と、未来を思い描きながら工事に取り組んでいる。



道路を挟んだ両側は工事対象外のエリアであり、既存の施設が隣接している。このような場所では、施設の営業や住民の交通などの妨げにならないよう、作業には特に細心の注意と厳重な対応が求められる。

相手の目線に立った
住民、地権者との交渉

工事と干渉する建物は約100軒にのぼる。住宅や店舗、事務所など多岐にわたり、工事区域と建物が接触する箇所も多い。地下の構造物を撤去する際には、地権者の許可も必要になる。とりわけ、震災直後に避難指示が出された浪江町では、住民とのやり取りに細心の配慮が求められる。「戻られてきた方、移動されて戻らない方。さまざまな想いや背景を抱えている地権者さんが多くいます。だからこそ『自分が地権者だったらどう思うか』という視点を大切にし、コミュニケーションを取るようにしています」と清水所長は語る。

事前確認を徹底した
地下構造物の撤去・新設

清水所長が「今回の現場で最も難しい」と語るのが、水道管や下水管などの地下構造物の撤去・新設だ。「さまざまな配管を複合的に布設したり、撤去する作業は非常に複雑です。新たに管を埋設するために、いまま使用中の管を一度取り外し、そこに新たな配管を接続することもあります。使用中の管を傷つけてしまっては大きな問題になるため、毎日図面を確認しながら慎重に進めています」。ただし、図面通りにいかない場面も多い。「管の布設を予定していた場所にコンクリートの構造物が残っていたり、かつての住宅の基礎が出てきたりと、実際に掘ってみないとわからないことも多くあります」（清水所長）。また、水道管の移設にあたっては、住宅や店舗の方に一時的な断水の協力をお願いする必要もあり、細心の注意を払いながら作業が進められている。

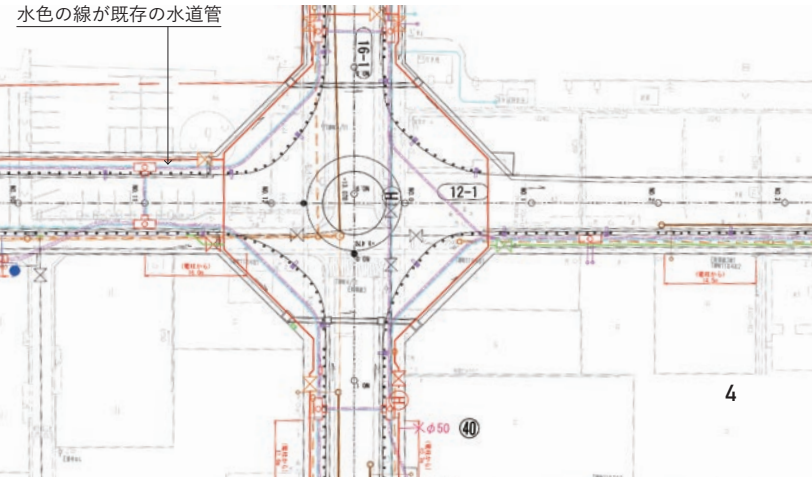


地権者との交渉が完了した地域から、順次整地作業が進められている。



右下の図面に示されているように、地下には多くの埋設物(色付きの線)が張り巡らされている。これらを図面や地表からの調査をもとに確認しながら、慎重に撤去や新設作業が進められている。

水色の線が既存の水道管



写真上／再開発により大きく様変わりする浪江駅。写真左下／駅前を着々と造成が進んでいる。写真右下／以前の街並みが残るエリアもまだ多い。

生活者に配慮した
標識や防犯灯などの移設

工事にともなって道路の通行止めや迂回ルートを設定するため、標識や防犯灯などの設備は移設や仮設が必要になる。「仮設ゴミ置き場の設置など、生活に直結する細かい対応も行っています」と清水所長は語る。

今後の対応が求められる
工事範囲外との接道・整合対応

発注されている工事範囲だけを整備すると、隣接する区画との接道部に段差が生じたり、周囲との整合性が取れなくなる恐れがある。「たとえば傾斜ができて排水がうまくいかなかったり、統一感がなくなって違和感が生まれたりする可能性もあります。それらをそのままにするわけにはいかないので、早めに対応策を検討する必要があると考えています」と清水所長は話す。

車道をかさ上げし
歩道との段差を解消

整備後は、歩道と車道に段差のないフラットな構造になる計画だ。そのため、現状の歩道に高さを合わせる形で、車道を10～15cmかさ上げする施工が予定されている。



既存の歩道と道路には写真のように段差があるが、整備後は同じ高さにそろえるため、道路をかさ上げする予定。



歩道の脇には仮設の街灯が並び、生活者への配慮が窺える。



写真左側はやや傾斜しており、このままでは道路の排水などに支障をきたす。適切な接合方法を検討し、対策を講じる必要がある。



パース上／浪江駅周辺のグランドデザイン基本計画。大屋根「なみえルーフ」が、駅や各施設のつながりを創出。パース中／建造物には可能な限り、浪江産集成材や福島県産木材を使用。地域の自然を活かした空間に、たくさんの交流が生まれる。パース下／なみえルーフや車止めに内蔵された間接照明などの照明計画により、夕方や夜間にも安心して立ち寄れるエリアに。

デザインの力で、
まちに新たな賑わいを育む

浪江駅周辺の再開発では、建築家・隈研吾氏の起用をはじめ、建物や街並みに“デザインの力”を取り入れたまちづくりが進められている。その背景や将来像について、浪江町役場 市街地整備課 計画係の上野幹一 係長に話を伺った。「震災から1年ほど経った頃から、『浪江駅周辺を再生してほしい』という町民の声が多く寄せられていました」。

上野係長は2017年に駅周辺の再生事業を担当することに。長年の課題であった財源の確保も進み、再開発に向けた検討が本格的にスタートしたという。「はじめは、駅周辺の再生という大きな課題をどのように対応して良いか分からなかったのですが、いわき市の勿来駅から仙台駅まで、JR常磐線の全40駅を調査しました。その中で、駅とその周辺の都市構造の基本を学ぶとともに、浪江駅周辺は、平らな

土地が広がっており、太い道路や大きな川などの障害がなく、再生のポテンシャルが高いことが分かりました。また、原発事故による全町避難で6年間誰も住んでいなかった町から、駅前に賑わいを生み出し、周辺地域にも波及させていくには、“他にはない魅力”が必要だと考えたんです」。

そこで浪江町では、通常、機能・コストの観点で検討を進める公共事業に、デザイン性を加えて再開発を目指すことに。2021年には、建築家・隈研吾氏やプロジェクトプランナー・伊東順二氏、住友商事と連携協定を締結した。「駅周辺一体の面的整備の利点を生かし、それぞれの建物が“点”としてではなく、駅周辺全体が“面”としてデザイン性に優れた空間になるようにしたいと考えました」。そうした思いから、人と人のつながりが生まれやすい円形の広場や、大きな屋根で複数の施設がゆるやかにつながっているように見える「なみえルーフ」などの設計が採用された。

再開発の工事はまだ始まったばかりだが、「住民の確かな期待を感じています」と上野係長は語る。「町民の皆様喜んでいただける整備を実現するとともに、復興した姿を、これまで支えてくださった全国の皆さんに見てもらうことが、私たちにできる恩返しだと思っています。そんな未来に向けて、まずは基盤整備工事が無事に完了することを願っています」。



浪江町役場 市街地整備課 計画係の上野幹一 係長。「帰還者や移住者、交流人口を増やすためにも、まずは浪江町に興味を持ってもらいたい。この再開発が、そのきっかけになれば」と語る。

2024年度 各県意見交換会



2024年度 意見交換 テーマ

1. 安定的かつ持続的な公共事業予算の確保と発注の平準化について
2. 働き方改革、担い手確保への取組みについて
3. 生産性の向上について

青森県

期日
2024年10月28日（月）
場所
ウェディングプラザアラスカ

県土整備部長
古市 秀徳



岩手県

期日
2024年11月15日（金）
場所
ホテルメトロポリタン盛岡
NEW WING

県土整備部技監兼
河川港湾担当技監
岩崎 等



秋田県

期日
2024年11月8日（金）
場所
秋田県JAビル

建設部長
川辺 透



宮城県

期日
2024年11月19日（火）
場所
江陽グランドホテル

土木部長
千葉 衛



福島県

期日
2024年10月24日（木）
場所
杉妻会館

土木部長
矢澤 敏幸



山形県

※山形県との意見交換会は2024年7月に発生した豪雨対応のため書面開催となりました。



日本建設業連合会東北支部
支部長

勝治 博

各県との意見交換会では、県発注工事の週休2日推進、担い手確保へ向けた広報活動などがより充実し心強く感じた。特に担い手確保は、県も新4Kの実現と真剣に向き合っている印象を受けた。業種間で人材獲得競争が厳しさを増す中、給料や休暇の2Kだけでは人材確保は難しい。モノづくりの楽しさや社会への貢献などを伝えていくことが、建設業の希望やかっこよさを感じてもらうために必須だ。

時間外労働の上限規制については、会員アンケートを見ると基準をクリアできるか、ぎりぎりの状況であることが分かる。週休2日の実現に向けた課題は民間事業者の発注工事であり、民間との意見交換を通じ対応を強く申し入れたい。

官民共通の課題となる担い手確保に対しては、各県とも土木系職員の採用で応募総数が減少しているなど、問題を自分事として捉えている。広報活動の充実

はとても重要で、SNSなどを利用し積極的に情報を発信しようとしている。日建連の会員企業に対しテレビCMなどで期待する声もあった。親世代への情報発信、若い人に向けたSNS活用など受け手ごとに戦略を練った広報活動が鍵になる。支部としては現場見学会の機会をより有効に活用し、希望やかっこよさが実感できる機会を増やしたい。

生産性向上に向けて、ASP（情報共有システム）や遠隔臨場などの活用、工事書類の標準化・簡素化は浸透してきたと感じている。日建連の会員企業を含めソフト面での生産性向上は順調に進展している。ただモノづくりの最前線では、PCa（プレキャスト）製品の活用をはじめ課題も多い。BIM／CIMなど生産性向上全般で日建連の会員企業が先行している取り組みはある。意見交換の場で具体的な事例を紹介することも効果的と考えている。

今回のテーマはいずれも宮城県として重要な課題と認識しており、次期みやぎ建設産業振興プランの策定に生かしていく。

今後も東日本大震災からの復興をはじめ、激甚化、頻発化する自然災害や老朽化するインフラへの対応など、県民生活と地域経済を支える取り組みを進めていく必要があり、その役割を最前線で担う建設業に対する期待は大きい。

担い手の確保に向けて、適切な賃金、休日の確保による働きやすい、働き続けられる職場の環境改善、DXの加速化により生産性向上に取り組んでいく。

建設産業の担い手の育成・確保のため、発注者の責務として、施工時期の平準化や適切な工期の設定などを進め、働き方改革を推進していく。

インフラ整備の必要性や足りない部分は変わらない。引き続き国土強靱化の重要な場面にあり、工夫しながら必要性和成果を発信していきたい。

2024年度 第2回東北地方整備局との意見交換会

期日／2024年10月7日(月) 場所／ホテルメトロポリタン仙台

東北地方整備局との2024年度第2回意見交換会が10月7日に開かれた。この中で日建連は完全週休2日の実現と適正工期を強く求めた。

意見交換には、東北地方整備局から西村拓局長をはじめとした幹部が出席、日建連からは勝治博支部長ら正副支部長・委員長が出席した。

開会に当たり、西村局長は「適用

開始から半年が過ぎた時間外労働の上限規制について改善すべき点などを聞きたい」と語った。勝治支部長は「上限規制により働き方のルールが大きく変わる中、もう一步前向きに取り組みを進める必要がある。賃金水準など技能労働者の処遇改善も極めて重要な課題だ」と応えた。



東北地方整備局
西村 局長



2024年度 東北支部活動報告会

期日／2024年12月11日(水) 場所／江陽グランドホテル

2024年度東北支部活動報告会では、支部が最優先課題に挙げる「働き方改革」と「生産性向上」などについて各委員会が活動状況を報告した。

冒頭、勝治博支部長は東北6県との意見交換会などを振り返りながら「公共事業予算の確保、働き方改

革、担い手の確保、生産性向上をメインテーマに、4月に始まった時間外労働の罰則付き上限規制適用開始以降に見えてきた課題などで、活発な意見を交わした。各発注者が業界の抱える課題を的確に理解し、解決に向けた取り組みを確実に進



日本建設業連合会 東北支部
勝治 支部長



めていることを確認し力強かった」と成果を語った。

2024年度 NEXCO東日本東北支社との意見交換会

期日／2025年2月6日(木) 場所／江陽グランドホテル

東日本高速道路(NEXCO東日本)東北支社との意見交換会が2月6日に開かれ、働き方改革などをテーマに話し合った。

意見交換会にはNEXCO東日本東北支社から梅木支社長をはじめとする幹部、日建連からは勝治支部長をはじめ副支部長・各委員長らが出席した。

勝治支部長は「時間外労働の罰則付

き上限規制の適用から10カ月が経過し、会員各社はギリギリ基準を充足できるかどうかという状況だ。適正な工期の確保や4週8閉所、契約の見直しに関する協議などもう一步前に進めていく必要がある」と強調。梅木支社長は「環境の変化に応じて現場の声を聞き、改善を進めることは発注者としても重要なこと。PDCAで現場の最適化を目指したい」と応じた。



NEXCO東日本東北支社
梅木 支社長



2024年度 電力工事委員会電力講演会

期日／2025年2月28日(金) 場所／江陽グランドホテル



電力工事委員会は2月28日、江陽グランドホテルで2024年度電力講演会を開いた。東北電力ネットワーク土木建築部の斉藤知秀副部長が「電力ネットワーク事業の新時代～変化にどう対応するか～」をテーマに講演。東北電力や会員各社から約120人が参加した。

同委員会の坂西将徳委員長は「建設業の罰則付き時間外労働規制への対応は、発注者の理解がなければ成し遂げられない。技能者の高齢化や担い手不足などさまざまな課題とも深く関係する事案であり、東北電力グループの皆さまにも理解してほしい」と語った。



日本建設業連合会 東北支部
坂西 委員長

2025年度 第1回東北地方整備局との意見交換会

期日／2025年5月13日(火) 場所／江陽グランドホテル

東北地方整備局との2025年度第1回意見交換会が5月13日、江陽グランドホテルで開かれた。

意見交換会には東北地方整備局から西村拓局長をはじめとした幹部が出席。日建連からは横井隆幸支部長をはじめ副支部長、各委員長らが出席した。

開催に当たり西村局長は時間外労働

の上限規制が始まったことを踏まえ、「まだまだ改善すべきところが多いので、忌憚ない意見を聞き改善につなげたい」と話した。横井支部長は時間外労働上限規制適用から1年が経過したことを踏まえ「会員各社とも基準を充足できるかギリギリの状態だ。受発注者協働でもう一步先へ取り組みを進める必要がある」と訴えた。



2025年度 公共工事の諸課題に関する意見交換会

期日／2025年5月30日(金) 場所／ホテルメトロポリタン仙台

日本建設業連合会と東北地方整備局をはじめとした東北地区主要発注機関との「公共工事の諸課題に関する意見交換会」が5月30日、ホテルメトロポリタン仙台で開かれた。

意見交換会には東北地方整備局の西村拓局長をはじめとする発注機関の幹部らが出席。日建連側は本部から清水琢三土木本部副本部長や各委員長、東北支部からは横井隆幸

支部長、副支部長ら幹部が顔をそろえた。

この中で東北地方整備局は、国交省が今年度に直轄工事で試行を始める技術提案評価型SI型について、同局発注の複数の工事で試行すると表明。働き方改革関連では、WTO工事とB工事は25年度、発注者指定による完全週休2日工事として発注するとした。



2025年度 東北支部定時総会

期日／2025年5月30日(金) 場所／ホテルメトロポリタン仙台

5月30日にホテルメトロポリタン仙台で開いた2025年度定時総会では、任期満了に伴う役員改選で新支部長に大橋成基清水建設常務執行役員東北支店長を選任したほか、請負契約制度の改善と積算の適正化、資材対策の推進などの活動を柱とする25年度事業計画を決めた。

大橋新支部長は「日建連加盟企業は、平時はものづくりを通じて官民の要望、その期待を超える価値を提供し、社会の発展を支え、自然災害発生時には、建設を通じて社会基盤を支える重要な役割を担っている。今後

も役割を果たし続けていくため、新4K(給与、休暇、希望、かっこいい)の実現に向けて取り組みたい」と抱負を語った。



日本建設業連合会 東北支部
大橋 支部長



2024年度 安全環境対策委員会 委員長パトロール

期 日／2024年7月18日(木)
工事名／富谷市成田二期東土地区画整理事業造成工事
施工者／日本国土開発
参加者／安全環境対策委員会 他



2024年度 建築技術委員会現場見学会

期 日／2024年11月12日(火)
工事名／仙台中央三丁目開発事業新築工事
施工者／鹿島建設
見学者／東北工業大学建築学部建築学科、
建築技術委員会 他



2024年度 市民現場見学会

期 日／2024年10月2日(水)
工事名／川内沢ダム本体工事
施工者／西松・奥田・グリーン企画JV
見学者／東北大学大学院工学研究科、
同大工学部建築・社会環境工学科、
広報委員会 他



2024年度 鉄道事業委員会安全パトロール

期 日／2025年3月17日(月)
工事名／東北本線金谷川・南福島間福島西道路こ道橋新設工事
施工者／鉄建・鹿島JV
参加者／JR東日本、鉄道事業委員会 他



2024年度 電力工事委員会現場見学会

期 日／2024年11月7日(木)
工事名／広域連携(開)新設工事のうち土木第二期工事
施工者／佐藤工業・ユアテックJV
見学者／東北電力、東北電力ネットワーク、
電力工事委員会 他



ENGINEERING EXHIBITION 東北'25

— 建設技術公開 —

期日／2025年6月4日(水)～5日(木)
場所／夢メッセみやぎ

広げよう新技術 つなげよう未来へ

34回を迎えた今回は、384の企業や団体が計952技術を展示した。
会場では設計・施工、維持管理・予防保全、防災・安全、その他の4分野に分けて最新の技術を紹介。新技術のプレゼンテーションのほか、「重機シミュレーター体験会」なども開かれ多くの来場者でにぎわった。
日建連会員会社からは、35社・114技術が出展された。



「EE東北」は、時代のニーズに対応して開発された建設分野・建設関連分野に関係する新材料・新工法などを公開し、その普及を図ることにより、良質な社会資本の整備を通じて地域の発展に寄与することを目的として、1990年度から開催されている。



もっと女性が活躍できる建設業を目指して

「けんせつ小町」は建設業で働くすべての女性の愛称です。
建設現場で働く技術者・技能者、土木構造物や建物の設計者、研究所で新技術を開発する研究者、
お客様とプロジェクトを進める営業担当者、会社の運営を支える事務職など、
活躍の舞台は多岐にわたります。

日建連はけんせつ小町を応援しています！

日建連では、これまで男性中心だった建設生産方式を女性が持てる力を発揮できる産業にしていいため、
女性にとっても働きやすく、働き続けられる労働環境の整備を進めています。
基本方針やアクションプランを定め、会員各社、専門工事業者、協力会社などと連携しながら、積極的に取り組んでいます。

けんせつ小町Instagram公開中！

けんせつ小町の日々の活動や活躍を発信しています。
ぜひフォローしてください！



follow
us!

Komachi event information

けんせつ小町 パトロール

日 時／2024年9月～11月
場 所／青森・宮城・山形・福島の計5現場



けんせつ小町 現場見学会

期 日／2024年10月9日(水)
場 所／阿武隈風力発電所建設工事(土木工事)
参加者／けんせつ小町(小)委員会委員長・WG委員 他



第8回けんせつ小町 フォーラム

期 日／2025年2月19日(水)
場 所／WEB開催
講 師／古川武士氏(習慣化コンサルティング代表取締役)



Stories Vol.8

周囲との信頼づくりが、 すべての土台。

はし ざか
端坂 早哉香さん

戸田建設株式会社 東北支店
宮城県塩釜高等学校卒、東北学院大学
環境建設工学科修了。2022年、戸田建
設入社。宮城県多賀城市出身。



小学生の頃に東日本大震災を経験し、橋や
道路が復旧していく様子を目にしたことで、「私
も人々の暮らしを支える仕事がしたい」と考える
ように。そんな思いから、インフラ整備や建物
の建設を通して安心や便利さを届けられる建設
業に魅力を感じ、この道を選びました。

これまでに関わった中で特に印象に残って
いるのは、ショッピングモール建設に向けた
土地の造成工事です。所長や作業員の方々と
良好な関係を築きながら、ひとつの目標に向
かって取り組めたことが大きな学びとなりまし
た。この経験から、コミュニケーションの大切
さを強く実感し、日頃から周囲と何でも言い

合える関係づくりを心がけています。そうす
ることで、相談や質問もしやすくなり、失敗を恐
れず挑戦できるようになると感じています。

現在は、いわき市内の風力発電所の建設
現場で進捗管理を担当しています。山道を運
転するのは大変ですが、毎日現場に足を運
び、作業員の方々とコミュニケーションを取り
ながら仕事を進めています。

現在の現場を含め、まだまだ女性が少ない
業界ですが、「やってみたい」「挑戦したい」と
いう気持ちがあれば、きっと成長できる仕事
です。不安なことがあっても女性の先輩社員
がサポートしてくれますし、私自身も女性がよ

り働きやすい環境をつ
くっていきけるよう努力して
いきます。

明確な目標はまだありま
せんが、今は色々な経験を
積み重ね、専門技術やス
キルを磨いていきたいと考
えています。そして将来は、
仲間を支えられる存在に
なれば嬉しいです。



趣味はプロ野球観戦という端坂さん。「宮城
に帰省した際は、よくスタジアムに足を運び
ます。夢中になって応援することで、いいリ
フレッシュにもなりますね」。普段忙しい分、
休日はリラックスした時間を大切にしている
そうです。

わたしの 現場探検記!!

Vol.33

工事名／公共関与型産業廃棄物最終処分場土木施設建設工事
工事場所／岩手県八幡平市平館第二地割
工期／2021年3月13日～2026年3月15日
発注者／一般財団法人 クリーンいわて事業団
設計監理者／八千代エンジニアリング株式会社
施工者／大成建設・平野組・大森工業特定共同企業体
工事内容／埋立面積:49,952㎡
埋立容量:607,300㎡(第1期埋立地)
造成工、遮水工、浸出水集排水工、付帯河川工、
道路工、散水設備工、管理棟建築・設備工事 他

人々の日常を支える 岩手県八幡平市の 産廃処分場建設工事の現場へ

人々の暮らしを50年先まで支えることを見据え、
岩手県八幡平市で建設が進められている公共関与型産廃処分場。
雄大な自然に囲まれた山あいの地で展開される、
大規模な建設現場を訪ねました。

今回の
現場

公共関与型産業廃棄物最終処分場
土木施設建設工事

今回の
訪問者

大成建設株式会社 東北支店 管理部管理室(当時)
金親 千秋さん

今回案内
してくれた人

大成建設・平野組・大森工業特定共同企業体
岩手産廃処分場建設工事作業所
作業所長 新井 健司さん

1 現場概要の説明



スライド資料や工事の様子を映した動画を交えながら、新井所長より工事の概要について説明を受けました。新しい処分場は山あいに位置するため、木を伐採し、山を切り拓いて場内を整える「敷地造成工事」がメインになるとのことです。

埋立地は3区画に分かれており、1区画あたり15年間使用される予定です。長い年月にわたって、多くの人の暮らしを支える施設になるのだと思うと、感慨深い気持ちになりました。

2 処分場の完成予想図



この処分場は、埋立地だけでなく、防災調整池や管理棟、浸出水の処理施設など、さまざまな設備で構成されます。開発面積は約38ha。埋立地の面積（第Ⅰ期～第Ⅲ期）は約13haで、東京ドーム約2.7個分にもなります。また、工事に携わる人も80人近くいると聞き、普段は内勤で関わる人が限られている私にとっては、とても驚きでした。

3 ICTを活用し、法面を整地



ショベルカーにはICT技術が導入されており、オペレーターの方はモニターで切り土の位置を確認しながら作業していました。これにより、より正確な整地が可能になるとのことですが、それでも最終的には人の目によるチェックを欠かさないそうです。最先端の技術と、人の確かなチカラ。その両方が建設現場を支えているのだと実感しました。

4 防水シートで遮水



処分場では、ごみから出る汚水が地下に染み込まないようにする「遮水」がとても重要です。そのため、敷地造成が完了した後、埋立地全体に不織布やビニールなどで構成された遮水シートをしっかりと敷き詰めるそうです。

5 河川の付替工事



現場には沢が流れているため、河川の付替工事が必要となります。そのための水路として、幅2メートル・全長1500メートルにも及ぶ排水フリームが設置されました。下流にある田んぼに影響を与えないよう、工期中も水の流れが滞らないように配慮されているとのこと。

6 回転式破碎混合工法の固定装置



現場で出る切り土はすべて敷地造成に活用されますが、岩手山の火山灰が堆積した細かい粒子の土質のため、そのままでは使えなかったそうです。そこで工法を検討した結果、土にセメントをまぶし、チェーンで細かく砕いて混ぜ合わせる「回転式破碎混合工法」の装置を導入することに。1日におよそ1000㎡の土を改良できる大型の固定式装置で、国内には20台ほどしかないうちの2台が、この現場に設置されていました！

7 移動式改良機



回転式破碎混合工法の固定装置に加え、1日に約300㎡の土を改良できる移動式の装置も使用されていました。固定式は埋立区画の中央に設置されていたが、移動式は機動力に優れているため、見学時には法面近くで稼働していました。

8 防災調整池



横幅165m・縦幅100mという、かなり大規模な防災調整池。当初、擁壁は現場で造る予定だったそうですが、土質の問題により、工期短縮の必要が生じたため、途中から「プレキャスト擁壁」に変更されたとのこと。プレキャスト擁壁とは、工場で製造した壁を現場で据え付ける工法で、これにより工期は当初の半分から3分の2程度まで短縮できたそうです。

感想

現場探検を終えて

今回の現場探検で印象に残ったことは、大きく3つあります。まず1つ目は、そのスケールの大きさです。現場の広さ、作業員の人数、重機の迫力。どれをとっても圧倒されました。所長は、毎日最低2回は現場を巡回しているそうで、そのたびに景色が少しずつ変化していくのが面白いと語っていたのが印象的でした。

2つ目は、コミュニケーションの活発さです。作業中は声が届かない場面も多く、手を挙げて挨拶したり、ジェスチャーで意思を伝え合っていました。所属や立場の異なる人たちが一つの目標に向かって働く姿から、日々のやり取りが強い連携を生んでいると感じました。

3つ目は、安全と品質への徹底した配慮です。安全面では、ロープに等間隔でピンクのリ

ボンが取り付けられていたり、乗用車の屋根に大きな旗が立てられていたりしました。品質向上の工夫としては、アスファルトの継ぎ目をガスバーナーで温め、ローラーでなめらかに仕上げる作業が印象的でした。継ぎ目が残ると将来的なひび割れの原因になるため、一つひとつ丁寧に処理されていたのです。数十年先まで安心して使える施設を目指し、人の手と目と足による細やかな確認が重ねられていました。

現場探検の前は、工事は大胆で豪快な作業というイメージを持っていました。しかし実際には、数センチ・数度単位の精緻な調整が随所で行われ、一つの大きな現場が組み上げられていることを知りました。私たちの生活を支える施設を安全に作るということは、安心な暮らし



大成建設株式会社 東北支店 管理部管理室（当時）

金親 千秋さん

を守ることそのものなのだと思います。この処分場が、50年先も安全に利用され、人々の日常を支えていくことを期待しています。

会津若松市庁舎 整備建築工事

発注者／会津若松市
設計者／梓・白井設計共同企業体
施工者／戸田・共立・弓田
特定建設工事共同企業体

施工場所／福島県会津若松市東栄町3-46
工期／ 2023年3月22日～2025年4月17日
工事内容／延床面積:13,738.30㎡
(庁舎棟13,475.73㎡、附属棟262.57㎡)
建築面積:3,185.58㎡
(庁舎棟2897.74㎡、附属棟270.22㎡、歩廊庇17.62㎡)
旧庁舎(改修):3階建、RC造、免震構造
新庁舎:地下1階、地上7階建、RC造一部S造、免震構造
附属棟:地上1階建、RC造

会津若松市庁舎(旧庁舎)は、88年前の1937年(昭和12年)に戸田建設が施工した庁舎建築物で、当時としては珍しい鉄筋コンクリート造3階建てです。建物壁面には古代ローマのコリントオーダー形式を模したアカンサス(植物)の葉飾りと渦巻き模様が施されて



いるのが特徴で、長年にわたり市民から親しまれ、会津若松市のシンボリックな建物となっています。
本工事は、旧庁舎の免震レトロフィット化と上屋建物の改修工事を行うことにより歴史的建物を後世に引き継ぎ、更に旧庁舎の南側に7階建ての新庁舎を増設し、旧庁舎と新庁舎を一体化する工事でした。また、敷地内に



公用車駐車場、駐輪場、倉庫の3棟も新築しています。これらの工事により、市内各所に点在している分庁舎を本建物に集約し、事務効率や利便性の向上が図れました。
基礎部分に球面すべり支承の免震装置を計82基配置したことにより、新旧が一体化した免震構造の建物となり、災害(地震)に強い建物に生まれ変わりました。

東北自動車道 原瀬川橋床版取替工事

発注者／東日本高速道路株式会社
設計者／五洋建設株式会社
施工者／五洋建設株式会社・株式会社安部日鋼工業
東北自動車道
原瀬川橋床版取替工事
特定建設工事共同企業体

施工場所／福島県本宮市荒井地先
工期／ 2022年8月6日～2024年10月23日
建物概要／床版取替工:(82枚) 2,324㎡
舗装工:2,080㎡(原瀬川橋 上下線)
床版取替工:(44枚) 1,400㎡
舗装工:1,273㎡(杉田川橋 上下線)
仮橋工:杭橋脚:199本 上部工:1,964t
下部工:228t 盛土工:8,465㎡
舗装工:5,093㎡中央分離帯改良工:393m

1987年に全線開通した東北自動車道は、大型車両の通行量増加や老朽化に伴い、橋梁等の補修工事が必要となっています。本工事は、福島県二本松IC～本宮IC間にある



原瀬川橋と杉田川橋で耐久性の高いプレキャストのPC床版へ取り替えると同時に、劣化を防ぐための床版防水を行ったものです。通常の床版取替工事では対面通行規制で施工を行います。本区間は交通量が非常に多く、対面通行規制を行うと交通渋滞が避けられないため、NEXCO 東日本の高速道路リニューアル工事では初となる、2車線・約800mの仮設迂回路を設置し4車線を

確保しながら順次床版取替を行う方法が採用されました。
限られた期間内での工事となりましたが、プレキャストPC床版による生産性の向上と、適正な工期の確保を行うことで、無事工事を完成する事ができました。これからも、安全、安心で地域経済や生活を支える重要なインフラとして、その役割を担い続けていくことを心より祈っております。

広瀬川 第3雨水幹線工事1

発注者／宮城県仙台市
設計者／宮城県仙台市
施工者／鴻池組・西武建設・あおみ建設・鎌田建設共同企業体

施工場所／宮城県仙台市青葉区花京院一丁目241地先
～土樋一丁目198-1地先
工期／ 2021年3月19日～2025年3月27日

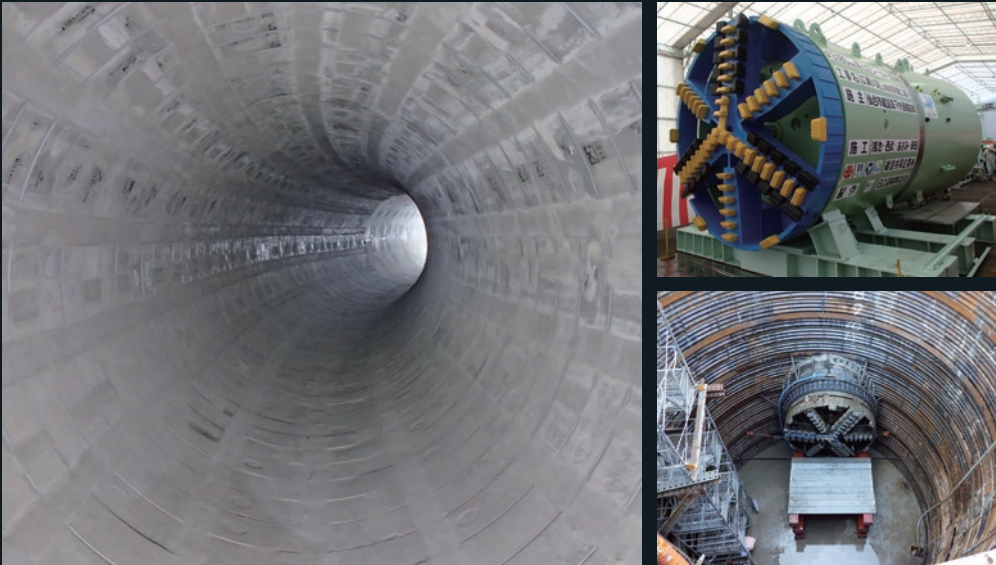
東北の玄関口であるJR仙台駅西口は、明治から昭和初期に「合流式下水道」で整備された地区であり、台風や局地的な大雨の際は下水道管の排水能力不足による浸水被害が頻発していました。当工事は、発注者である仙台市が重要施策と位置付ける「仙台駅西口地区の浸水対策事業」の一環として、大規模雨水処理施設の整備を行うものです。
整備する「広瀬川第3雨水幹線」は、その

(仮称)仙台厚生病院 移転新築工事

発注者／(一財)厚生会仙台厚生病院
設計者／株式会社佐藤総合計画
施工者／鹿島建設・橋本店・阿部和工務店
建設工事共同企業体

施工場所／宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町1番20号
工期／ 2021年7月4日～2024年2月29日
建物概要／敷地面積:41,262㎡
延床面積:46,296㎡
建物階数:病院棟:地上9F PH1F
エネルギーセンター棟:3F PH1F
保育所:3F

心臓血管・呼吸器・消化器の3領域の専門的な治療と地域の救急医療を提供する仙台厚生病院が、進歩する医療技術と今後増加する患者数に対応するため、仙台の街に調和する次世代型病院として移転・新築を行ったものです。
東北大学農学部キャンパス跡地である4万



沿線が住宅・商業・文教・医療施設が存在する地区であること、掘進経路がアーケード街の直下に位置することから、当工事が周辺環境に与える影響、具体的には「地盤陥没」「騒音」「振動」が大いに懸念されました。それらの対策として、掘進位置直上にて3時間ごとに地上の変状量を測定するほか、掘削に用いたシールドマシンに振動抑制対策を施して地上への伝播を軽減するなどの工夫

を凝らしました。同時に、近隣住民を対象とする現場見学会を適宜行うことで、工事に対する地域の理解を頂きながら進めてまいりました。
これら努力の積み重ねにより、4年に渡る工事を無事故無災害で竣工を迎えることができました。本幹線が、仙台駅西口地区の浸水被害軽減に貢献することを願っております。



㎡を超える敷地に建設された同病院は、免震構造の病院棟と、エネルギーセンター棟、保育所棟から構成されています。感染症対策の強化やプライバシーに配慮するため、409床の病室を全て個室化するとともに、最新鋭の設備・機器を導入し、将来の拡張スペースを内外に確保されています。
可能な限りのユニット化、先行施工した高層階エレベーターの活用により生産性向上と

省力化を目指しました。「もの決め工程」提示による総合図の早期作成、BIM活用、モックアップ、モデルルームを通じ、発注者・設計者との効果的な意識の共有、課題抽出、合意形成を図り、工程に遅れることなく、発注・施工を進めました。
杜の都・仙台に調和する次世代型先進病院として、今後も地域の中核的な役割を果たすことを期待しております。

成田南物流施設 新築工事

発注者／鹿島建設株式会社
設計者／鹿島建設株式会社
施工者／鹿島建設株式会社

施工場所／宮城県富谷市成田9丁目52-1、2
工期／2023年8月1日～2024年10月31日
建物概要／敷地面積:21,770.79㎡
法床面積:46,290㎡
建築面積:10,325.95㎡
延床面積:約46,726.03㎡
躯体構造:地上1階～地下4階
軒高:28.18m

鹿島が施行した土地区画整理事業地内に、鹿島の自社開発物件として物流施設を開発しました。東北自動車道仙台泉ICから約3kmの当該地は、東北エリアを広域にカバーできる物流センターに適した立地です。4階建てのス



ローブ型物流施設で、標準仕様として荷物用エレベーターと垂直搬送機を各4基配置しています。また、1階2階合わせて48台分のトラックバースを設け、スロープには寒冷地対応として融雪機能を備えています。施設内に共用のカフェテリアや屋上テラスを設け、テナント従

業員の利便性・快適性を追求しています。建物の構造には、東北地方のマルチテナント型物流施設として初めて免震構造を採用しています。またBCP対策として、連続72時間給電可能な非常用発電設備を設置しています。

日新製薬(株) 長岡工場新築工事

発注者／日新製薬株式会社
設計者／梅津宏治設計事務所
施工者／大成建設株式会社

施工場所／山形県天童市東長岡4丁目2～23
工期／2023年10月18日～2025年1月31日
建物概要／延床面積:12,216.94㎡
建築面積:3,541.48㎡

発注者である日新製薬株式会社様は、山形県を拠点に医薬品、医薬部外品、動物医薬品の製造、販売をしています。地域社会とのつながりも深く、イベントへの協力などを通じて、地域経済・社会への貢献にも力を入れています。

今回新築した長岡工場は、山形県天童市に位置する、同社の主要な医薬品製造拠点で



す。日新製薬株式会社様は、高品質なジェネリック医薬品の製造・供給を通じて、日本の医療を支える製薬企業として知られています。長岡工場では、錠剤やカプセル剤など幅広い製剤の製造が行われており、最新のGMP(医薬品の適正製造基準)に準拠した高度な生産体制が整えられています。

品質・安全・効率を重視した製造設備を備え、安定供給体制の強化に努めています。また、製造過程での厳格な品質管理と検査体制

により、患者が安心して使用できる医薬品の提供を実現しております。

当現場では、品質においては、お客様のニーズに応えるべく、設計から施工の場面で、設計事務所との連携を密にすることで、高品質な施設を作り上げることができました。安全においては、所員全員による綿密で継続的な現地安全確認と協力業者への丁寧な安全教育を実践し、全工期において無事故無災害を達成いたしました。

日建連表彰2024(第5回土木賞)



秋田新幹線斉内川橋りょう改築工事

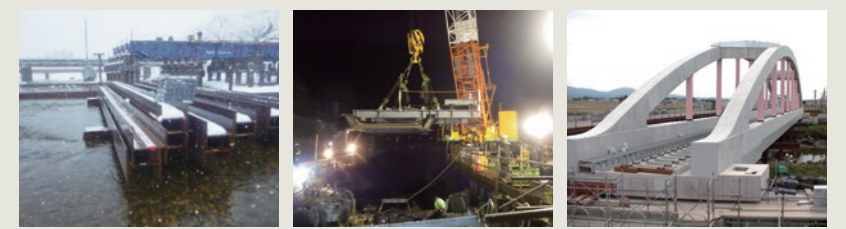


- 所在地／秋田県大仙市長野地内
- 施設管理者／東日本旅客鉄道株式会社
- 設計者／JR東日本コンサルタンツ株式会社
- 施工者／鉄建建設株式会社
- 着工日／2017年7月27日
- 竣工日／2023年2月28日

[受賞理由]

秋田県の斉内川では、2015年7月の豪雨により堤防が決壊し、約8haが浸水。これを受け、橋長71.1mの開床式PRCランガー橋を横取り一括架設で改築する新幹線初の工事が行われた。河川側の高水位確保・河積阻害率低減と、鉄道側の運休最小化・軌道高維持の両立が課題で、計画と施工方法の抜本見直しが求められた。

夜間線路閉鎖での非開削施工を重ね、品質確保のため実物大試験体による打設計画の検証も実施。横取り架設では多数のリスクを想定し、仮設橋台の支持設計やガイドローラー設置、事前地切り確認など全作業のリスク対策により、安全かつ計画通りの横取りを実現。新橋台・新橋りょうを同時施工し、工程を約2年短縮。列車への影響なく施工を完了し、河川改修の早期完了に貢献した。



土木博物館

古きを訪ね、新しきを知る

おお くら

大倉ダム

宮城県仙台市

仙台圏の安心な暮らしを支える、国内唯一の「ダブルアーチ式コンクリートダム」



- 名称／大倉ダム(おおくらだむ)
- 所在地／宮城県仙台市
- 施工会社／前田建設工業株式会社
- 竣工年／1961(昭和36)年
- 選奨年／2023(令和5)年度
- 選奨理由／大倉ダムは、地形特性を考慮した我が国唯一のダブルアーチダムであり、多目的ダムとして仙塩地域の人々の生活や産業を支えてきた歴史的構造物です。

奥羽山脈に源を発し、やがて広瀬川に合流する大倉川。その上流部、渓谷に抱かれるように建っているのが「大倉ダム」だ。

このダムは1947年のカスリン台風、翌年のアイオン台風、そして1950年に大洪水と自然災害が相次いだことから、計画が本格化した。一方、戦後の仙台・塩竈地域の人口増加と工業化の進展により、上水道や工業用水の需要が急速に高まったことから水資源の開発も期待され、自然災害への備えと都市インフラの両立を叶える多目的ダムとなることが求められた。

ダムは1958年に旧建設省の直轄事業として着工。周囲の地形や地質条件を考慮し、国内で唯一の「ダブルアーチ式コンクリートダム」として設計され、工事は難航したものの4年の歳月をかけて完成。半径82mのアーチが2つ連なり、堤高は最大82m、堤頂長は323mにも及ぶ、構造美と機能性を併せ持つダムとなった。

以来、洪水調節やかんがい、水道・工業用水の供給、さらには水力発電と、さまざまな役割を担い続けている大倉ダム。仙台と周辺地域の生活や文化、産業を支える土木構造物として、その役割は重要性を増している。